

# ・ 立地条件の確立に取り組んだモデル（小さな拠点）

【定住条件：買い物＋交通＋医療・福祉＋育児・教育＋住宅】

主体：自治体（岡山県新見市（旧哲西町）：山間）

＜現状＞

- 人口5,884人（S35）  
3,243人（H12）  
2,497人（H27）
- 高齢化率34.9%
- 旧哲西町には医療施設がなく、町民から医療の充実の要望が高かった。




＜対策後の立地＞

- 平成13年、道の駅に隣接し、診療所、役場、保育所、福祉施設、等を集中した小さな拠点を整備（特に、24時間365日の医療サービス提供を実現）
- 約3年間、60数回に及び住民を交えた徹底した会議

**複合施設「きらめき広場・哲西」  
拠点に集約された施設**

- ・ 町役場【移設先】（合併後、市役所支所）
- ・ 診療所（内科・腫瘍）【新設】
- ・ 保健福祉センター【新設】
- ・ 図書館【移転新設】
- ・ 生涯学習センター【新設】
- ・ 文化ホール【新設】
- ・ 産協ATM【新設】
- ・ 道の駅（隣接）【情報コーナー、レストラン、喫茶所、農産加工販売施設、米粉製粉施設、米粉パン製造販売所、文化伝承館】【新設】
- ・ バス等発着所【新設】



※ 既存のデマンド福祉バス等に加え、道の駅を拠点とした自動運転サービスの実証実験にも参画（H29：国交省）



＜効果＞

- 人口減少幅が縮小。  
▲66人（S35～H12年 平均）  
▲49人（H12～H27年 平均）
- 住民の健康の場、人々の交流の場、賑わいの場として、住民活動の拠点として活用。

【施設の利用状況H28】

|     |       |
|-----|-------|
| 診療所 | 約13千人 |
| 図書館 | 約11千人 |
| ATM | 約18千人 |
| その他 | 約19千人 |
| 計   | 約61千人 |

応用・汎用  
できるポイント

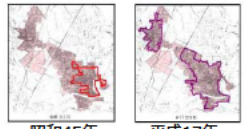
- 旧町中心部に生活を支える広範なサービス機能を新たに集約したことにより、住民の利便性の向上・交流の場を創出。
- 住民との長期にわたる徹底した話し合いにより、コンセプト、施設計画をとりまとめ。

【定住条件：買い物＋交通＋医療・福祉＋育児・教育＋住宅】

主体：自治体、NPO等（新潟県見附市：平場）

＜現状＞

- 人口41,057人（S45年）  
↓（1,611）  
42,668人（H17年）  
↓（2,060）  
40,608人（H27年）
- DID（4,000人/km<sup>2</sup>の人口集中地区）が3倍に拡大し市街地が拡大。



昭和45年      平成17年



＜対策後の立地＞

- 拡大した市街地の中で、医療、福祉、商業等の都市機能を誘導し集約、各種サービスの効果的な提供を図るため3つの都市機能誘導区域を設定。併せて、市街地と周辺地域を公共交通で接続することで、高齢者にも優しいまちづくりに取り組む。



ふるさとセンター  
（地域コミュニティゾーンの活動拠点）  
市内全域に11箇所整備

コミュニティバス



＜効果＞

- 20代人口の転入超過（転入-転出）  
7人（H28年）
- 中心市街地に生活サービス機能点等を集約し、利便性・賑わいの場を創出。  
まちなか賑わいイベント参加者数20,705人（H28）
- 郊外と市街地間の地域公共交通の再編による利便性を向上。コミュニティバス利用者数 34,814人（H17）→ 148,094人（H28）

応用・汎用  
できるポイント

- 50年後の人口減少を見据えた市のグランドデザインを基に、コンパクト＋ネットワークによる持続可能なまちづくりを推進。
- 都市機能を市街地に集約・拠点化し、周辺地域との公共交通を再編。